

基調報告 「“ 夢の砦 ” を築くには JADS , ALC と展覧会カタログ - 達成と課題」

水谷 長志

1. 『展覧会カタログ総覧』への前史
- JADS 関連事項
- ALC 関連事項
- 本稿と関わりの深い事例(刊行物及びシステム)
- 1976.6 東京都美術館、美術図書室開室
- 1989.4 アート・ドキュメンテーション研究会 [JADS]発足
- 1989.11 横浜美術館、美術図書室開室
- 1990.6 『新美術新聞』No.572「カタログは多くを語る：大阪でカタログコンクール開催」
- 1990.12 『現代の図書館』Vol.28, No.4「特集：アート・ドキュメンテーション」に「日本の展覧会カタログについての一考察」中島理壽
- 1991.3 『現代の眼(東京国立近代美術館ニュース)』No.436「特集：展覧会カタログ」伊藤真他
- 1992.1 『通信』No.12「展覧会カタログの整理：整理WGの活動から」整理WG
- 1991.1 『通信』No.11「展覧会カタログ収集に関するアンケートの結果報告」収集WG
- 1992.2 NDL『参考書誌研究』Vol.50「国立国会図書館所蔵 戦前期美術展覧会関係資料目録」石渡裕子
- 1992.3 『研究』No.1「展覧会カタログの情報管理」嘉数周子, 住広昭子, 田窪直規, 松井純子
- 1992.6 年次大会にて「展覧会カタログ情報誌の提案」種市正晴 於, 東京国立博物館資料館 JADS 収集WGの活動
- 1992.7 第11回研究会にて「展覧会カタログを考える」本江邦夫ほか 於, 日仏会館図書室(日仏美術学会と共催)
- 1995.3 東京都現代美術館、美術図書室開室
- 1996.11 アートカタログ・ライブラリー(財団法人 国際文化交流推進協会)公開
- 1999.5 横浜美術館、OPAC 公開
- 1999.11 第2回フォーラムにて「展覧会カタログの書誌情報 - その生成と流通に関する一試論」西村昭子・水谷長志 於, 国立西洋美術館
- 2000.3 『東京都現代美術館所蔵展覧会カタログ目録 1999年3月末現在』
- 2002.1 東京国立近代美術館、アートライブラリー開室
- 2002.3 国立西洋美術館、研究資料センター開室
- 2003.1 東京国立近代美術館、OPAC 公開
- 2003.3- 『日本の美術展覧会開催実績報告書』
- 2003.6 『展覧会カタログの愉しみ』今橋映子編著 東京大学出版会
- 2003.9 東京都現代美術館、OPAC 公開
- 2004.3 美術図書館横断検索 ALC 公開 JADS 野上記念推進賞
- 東近美、都現美、横浜美からスタート
- 2004.3 国立西洋美術館、OPAC 公開
- 2004.10 アート・カタログライブラリー閉館 蔵書は国立新美術館へ移管継承(約2万冊)
- 2005.3 国立西洋美術館、ALC 参加
- 2005.5 『美術カタログ論 記録・記憶・言説』島本浣著 三元社 JADS 野上記念学会賞
- 2006.3 『東京文化財研究所蔵書目録 6(上): 展覧会カタログ 目録編 1884-2004 開催分』
- 2006.6 NII「展覧会カタログに関する取扱い及び解説(平成18年6月15日版)」
http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/PUB/nl2/No18/f6_p1.html
- 2007.1 東京都写真美術館、ALC 公開に参加
- 2007.1 国立新美術館開館 アートライブラリー開室、ALC 参加
- 2007.4 NACSIS Webcat (NII) への ALC 横断検索に対応
- 2007.6 東京国立博物館、ALC 公開に参加
- 2007.6 東近美アートライブラリーのサイト「展覧会カタログに関する文献リスト[試稿]」2nd ed.
<http://www.momat.go.jp/art-library/art-library-guide/exhcatbiblio.html>
- 2007.7 江戸東京博物館、ALC 公開に参加
- 2009.1 『展覧会カタログ総覧』日外アソシエーツ + ALC7 館
2. 展覧会とそのカタログ 数の見直し
- 2.1 展覧会の数を把握する: 『展覧会カタログ総覧』
- 収録年代 1880 ~ 2007
- 収録書誌数 61,232(異なり展覧会数)
- 所蔵件数 113,250
- 監修およびデータ提供
- 東京国立近代美術館
- 横浜美術館
- 国立西洋美術館
- 東京都写真美術館
- 東京国立博物館
- 東京都江戸東京博物館

データ提供

国立新美術館

2.2 展覧会の数を把握する：『日本の美術展覧会開催実績報告書』ほか

『日本の美術展覧会開催実績報告書』

国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー編 東京：国際文化交流推進協会アートカタログ・ライブラリー，国立新美術館，2003；2004；2008. 中島理壽監修

1945-2000: 収録展覧会 21,747 件

2001-2003: 収録展覧会 3,067 件

2004-2005: 収録展覧会 2,311 件

「近現代美術展覧会開催情報検索」

東京文化財研究所（最終更新日 2008 年 12 月 9 日）

161,871 件

http://archives.tobunken.go.jp/internet/exkensaku.aspx

すべての展覧会でカタログが作られている訳ではない

『日本の美術展覧会開催実績報告書』1945-2000；2001-2003 のうち、何らかの印刷刊行物を伴ったと判断されたのは 15,392(約 62%)

『開催実績』が「主要な美術館かつ展覧会開催があったかどうか未詳の空白期間がほとんど少ない美術館」であっても

参考：

拙著「美術図書館横断検索 by ALC - その公開と課題」『アート・ドキュメンテーション研究』no.12, 2005. 3

2.3 展覧会カタログの書誌数(件数)を把握する

「展覧会カタログ検索」

東京文化財研究所（最終更新日 2008 年 11 月 4 日）26,724 件

http://archives.tobunken.go.jp/internet/cbkensaku.aspx

『東京文化財研究所蔵書目録 6(上): 展覧会カタログ目録編 1884-2004 開催分』

東京文化財研究所，2006. 3.

企画展一覧: 21,744 件

団体・連続展一覧: 4,122 件

『東京都現代美術館所蔵展覧会カタログ目録 1999 年 3 月末現在』

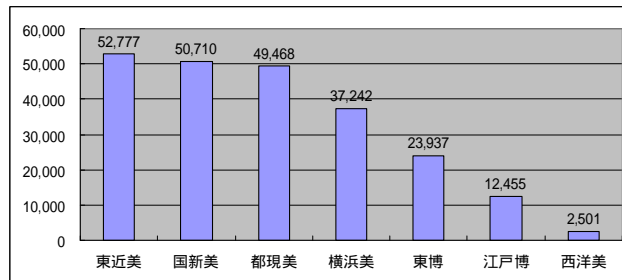
東京都現代美術館，2000. 3.

15,005 件

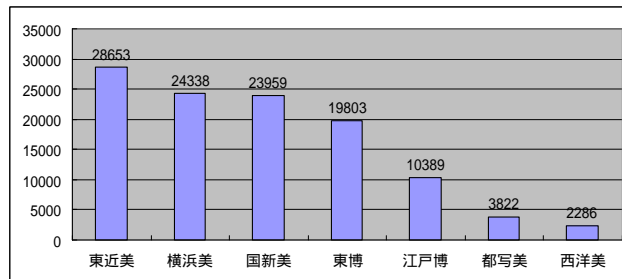
『展覧会カタログ総覧』日外アソシエーツ+ALC7 館

全 61,232 書誌

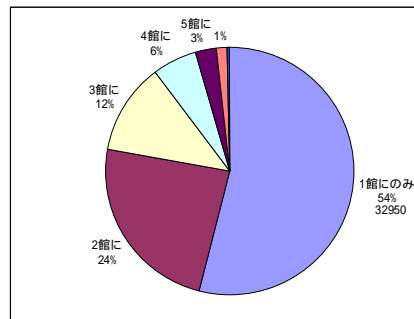
ALC における展覧会カタログ所蔵数 229,090 (2008.10.31 時点)



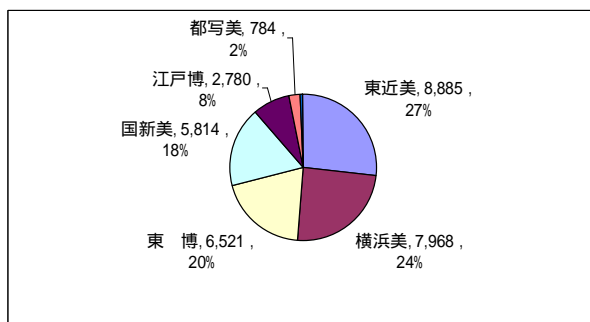
『展覧会カタログ総覧』61,232 書誌における各館件数(異なり書誌数)



『展覧会カタログ総覧』全 61,232 書誌とその所蔵先件数(何館に所蔵されているか)



『展覧会カタログ総覧』1館にのみ所蔵 32,950 書誌の所蔵先



参考：

本稿末尾のグラフ【数の把握を試みる】

地方史研究協議会編『全国地域博物館図録総覧』岩田書院，2007.10, 476p. 7.105 件

4. アートライブラリ/アート・ドキュメンテーションから見た展覧会カタログに関わる情報群の質的課題

4.1 収録論文(記事)情報の検索可能性

例えば
東近美、新美、西美のカタログ掲載論文
図書館システム Limedio 電子図書館機能 目次入力
都現美 注記での悉皆的な記事情報入力
東京文化財研究所「美術関係文献検索（試験運用版）」
[http://archives.tobunken.go.jp/internet/
oakensaku.aspx](http://archives.tobunken.go.jp/internet/oakensaku.aspx)（最終更新日 2008 年 10 月 6 日 1966
～ 2004 年分 268,627 件）
4.2 テーマ(グループ)展出品作家情報の検索可能性

AL、SH での入力？
4.3 出品作品情報の検索可能性？
4.4 展評 - 出来事としての展覧会の記録
5. おわりに - 美術情報の 連携 構造を築くこと
試行中 国立美術館版「想 IMAGINE」
2009.1.19 公開済み
国立国会図書館 PORTA
<http://porta.ndl.go.jp/portal/dt>

『展覧会カタログ総覧』序文「夢の砦 - 展覧会カタログのために」

かつて展覧会カタログのための専門図書館、アートカタログ・ライブラリー(財団法人国際文化交流推進協会)が赤坂にあって、残念ながら 2004 年 10 月末日をもって閉館しましたが、そのカタログを移管継承した国立新美術館が設立準備室だった頃、同室のニュース誌に「夢の砦 - アートライブラリ 展覧会カタログのために」¹⁾と題し、次の一節を書いたことがあります。

人々が行き交うように、作品も、いま、静かに安全に細心に、運ばれていきます。
美術館から美術館へ、個人のお宅から美術館へ、道路を、空路を、山を越え、海を渡り。
そして、展覧会は開かれて、閉幕とともに、ふたたび、静かに、もとの安息の地へ帰ります。
展覧会は、このように作品が集まり、また、散りゆく、^{ひととき}一刻の夢の場です。わくわくしませんか。
そして、夢の^{おもかげ}面影は、観る人の心のうちとカタログ(図録)に残ります。
私たちは、アートライブラリ(美術図書室)を作ります。
そこにある^{いちご}主役は、一期の夢をよみがえらせる、展覧会のカタログです。

この総覧に参加した美術館、博物館の図書室は、いずれも展覧会を開き、カタログを作る館の中にあつて、館の活動を記録する資料であり、かつ館の活動、特に調査研究を支える資料としての展覧会カタログを収集保管し、一般への公開と提供も行なっています。各館は個々に蔵書の検索システムをインターネットに設けるとともに、8 館 10 室の蔵書を横断的に検索するシステム(<http://alc.opac.jp>)にも参加しています²⁾。本総覧の刊行もまた、この美術図書館横断検索を維持する美術図書館連絡会(ALC: Art Libraries' Consortium)の存在があつてはじめて可能になりました。

これまで「隠れたベストセラー」と言われながらも、書店では買えない「本であつて本でない」不思議な存在の展覧会カタログ³⁾。展覧会が終われば「残るのは“カタログ”」⁴⁾であるように、展覧会という^{ほかな}儚き夢をよみがえらせる、カタログの砦、「夢の砦」⁵⁾であるような専門図書館が、「ミュージアムの中のライブラリ」として存在していることを、この総覧の刊行を機に、展覧会カタログの魅力とあわせて、広く多くの方々に知っていただけることを願っています。

1) [無署名] 『国立新美術館設立準備室ニュース』No.2, 2005.3, p. [5].

2) ALC は 2004 年 3 月、東京国立近代美術館、東京都現代美術館、横浜美術館の 3 館でスタート。以後、本総覧参加の国立西洋美術館、東京都写真美術館、国立新美術館、東京国立博物館、東京都江戸東京博物館が加入、2007 年 7 月、全体で 8 館となり、同年 4 月には NACSIS Webcat (NII) への横断検索も可能にしている。東京国立近代美術館は美術館のアートライブラリ、工芸館の図書閲覧室、フィルムセンターの図書室の 3 室。ALC は 2007 年度第 1 回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会推進賞を受賞。システムの詳細は同学会発行『アート・ドキュメンテーション研究』(no.12, 2005.3)掲載の拙文「美術図書館横断検索 by ALC - その公開と課題」を参照されたい。なお、本総覧への東京都現代美術館の参加はないが、同館美術図書室による『東京都現代美術館所蔵展覧会カタログ目録 本文編/索引編』(同館, 2000-2001)がある。

3) その不思議さと魅力は、例えば、今橋映子編著『展覧会カタログの愉しみ』(東京大学出版会, 2003.6)などを参照されたい。種市正晴編「展覧会カタログに関する主要日本語文献一覧」『アートカタログ・ライブラリー・ニュース』1 号 (1996.11, <http://www.acejapan.or.jp/acl/ln01-07.html>にて閲読可)も貴重。

4) 高階秀爾「新美術時評 残るのは“カタログ”」『新美術新聞』No.623, 1991.12, p.7.

5) 小林信彦氏の小説題名(新潮社, 1983)よりお借りしました。

【数の把握を試みる】

展覧会とカタログ
の数の把握を試みる

【ソース】

- 東文研近現代美術展覧会開催情報検索
- 日本の美術展覧会開催実績報告書
- 展覧会カタログ総覧
- 東近美所蔵展覧会カタログ
- 日本の美術展覧会開催実績報告書カタログ有り
- アートcommons

『展覧会カタログ総覧』全61232書誌
1885-2007 年別刊行件数

